

(講座) 環境薬科学

(研究室) 衛生化学

(氏名) 淵上 剛志

(職名) 助教

【研究テーマ】

1. がん選択的な核医学診断の実現を目指したイメージング剤の開発
2. 脳神経疾患の病態解明及び早期診断を目的とした核医学イメージング剤の開発

【論文発表】

A 欧文

(A-a) 原著論文

1. M. Ogawa, S. Nishiyama, H. Tsukada, K. Hatano, T. Fuchigami, H. Yamaguchi, Y. Matsushima, K. Ito, Y. Magata : Synthesis and evaluation of new imaging agent for central nicotinic acetylcholine receptor α_7 subtype, *Nucl. Med. Biol.*, **37**, 347-355 (2010). (IF:2.456)
2. Samuel Osei-Asante, M. Haratake, T. Fuchigami, M. Nakayama : An Ionic Polymer Bead-supported Lipid System Using Naturally Occurring Phospholipids, *J. Bioact. Compat. Polym.*, **25**, 455-464 (2010). (IF:2.800)
3. M. Ono, R. Ikeoka, H. Watanabe, H. Kimura, T. Fuchigami, M. Haratake, H. Saji, M. Nakayama : Synthesis and Evaluation of Novel Chalcone Derivatives with $^{99m}\text{Tc}/\text{Re}$ Complexes as Potential Probes for Detection of β -Amyloid Plaques, *ACS. Chem. Neurosci.*, **1**, 598-607 (2010). (2010年創刊)
4. M. Ono, R. Ikeoka, H. Watanabe, H. Kimura, T. Fuchigami, M. Haratake, H. Saji, M. Nakayama : $^{99m}\text{Tc}/\text{Re}$ complexes based on flavone and aurone as SPECT probes for imaging cerebral β -amyloid plaques, *Bioorg. Med. Chem. Lett.*, **20**, 5743-5748 (2010). (IF:2.650)
5. Samuel Osei-Asante, M. Haratake, T. Fuchigami, M. Nakayama : One-step direct reconstitution of biomembranes onto cationic organic polymer bead supports, *J. Colloid. Interface. Sci.*, **351**, 96-101 (2010). (IF:3.019)
6. T. Fuchigami, H. Yamaguchi, M. Ogawa, Le Biao, M. Nakayama, M. Haratake, Y. Magata : Synthesis and biological evaluation of radio-iodinated benzimidazoles as SPECT imaging agents for NR2B subtype of NMDA receptor, *Bioorg. Med. Chem.*, **18**, 7497-7506 (2010). (IF:2.822)
7. M. Ono, Y. Fuchi, T. Fuchigami, N. Kobashi, H. Kimura, M. Haratake, H. Saji, M. Nakayama : Novel benzofurans with ^{99m}Tc complexes as probes for imaging cerebral β -amyloid plaques using single photon emission computed tomography, *ACS. Med. Chem. Lett.*, **1**, 443-447 (2010). (2010年創刊)

【学会発表】

A 国際学会

(A-b) 一般講演

1. M. Hongoh, M. Haratake, T. Fuchigami, M. Nakayama: Thiol-dependent selenium transport in red blood cell membranes. 第9回国際セレン学会 (9th International Symposium on Selenium in Biology and Medicine), 2010年5月(京都)
2. S. Yoshida, M. Haratake, T. Fuchigami, M. Nakayama: Separation of selenium species in a processed Japanese anchovy. 第9回国際セレン学会 (9th International Symposium on Selenium in Biology and Medicine), 2010年5月(京都)

B 国内学会

(B-b) 一般講演

1. 淵上剛志, 山口博司, 小川美香子, 楽 豹, 中山守雄, 間賀田泰寛: ^{125}I 標識ベンズイミダゾール誘導体の NMDA 受容体 NR2B サブタイプ機能診断薬剤としての基礎的評価. 日本薬学会第 130 年会, 2010 年 3 月(岡山)
2. 小橋信弥, 祖母井香織, 原武 衛, 淵上剛志, 布施隆行, 西田教行, 中山守雄: キナクリン誘導体のアミロイドイメージングプローブとしての評価. 日本薬学会第 130 年会, 2010 年 3 月 0 日(岡山)
3. 坂野綱則, 原武 衛, 松元真哉, 淵上剛志, 中山守雄: グルタチオンペルオキシダーゼ様活性を有するヒト血清アルブミンの合成. 日本薬学会第 130 年会, 2010 年 3 月(岡山)
4. 瀧口 徹, 原武 衛, 淵上剛志, 中山守雄: プリオン様タンパク質 Sup35 由来アミロイド形成ペプチドの凝集挙動の検討. 日本薬学会第130年会, 2010年3月(岡山)
5. 瀧 靖史, 池岡諒一, 小野正博, 淵上剛志, 原武 衛, 中山守雄: 老人斑アミロイドイメージング薬剤開発のための $^{99\text{m}}\text{Tc}$ 標識ベンゾフラン誘導体の合成と評価. 日本薬学会第130年会, 2010年3月(岡山)
6. 渡邊裕之, 小野正博, 真矢啓史, 淵上剛志, 原武 衛, 佐治英郎, 中山守雄: オーロンを基本骨格とする PET/SPECT ハイブリッド型アミロイドイメージングプローブの開発. 第 5 回日本分子イメージング学会総会・学術集会, 2010 年 5 月(滋賀)
7. M. Nakayama, R. Ikeoka, M. Ono, T. Fuchigami, M. Haratake: Synthesis and evaluation of novel chalcone derivatives with $^{99\text{m}}\text{Tc}$ complexes for detection of β -amyloid plaques. 第20回 金属の関与する生物関連反応シンポジウム, 2010年6月(徳島)
8. 瀧口 徹, 原武 衛, 淵上剛志, 中山守雄: プリオン病における異常型タンパク質構造の伝播に関する検討. フォーラム 2010: 衛生薬学・環境トキシコロジー, 2010 年 9 月(東京)
9. 万代恵実, 原武 衛, 淵上剛志, 中山守雄: あご(トビウオ)中セレン含有成分の分析. フォーラム 2010: 衛生薬学・環境トキシコロジー, 2010 年 9 月(東京)
10. 北郷真史, 原武 衛, 淵上剛志, 中山守雄: Anion exchanger 1 のチオールが媒介するセレンの赤血球膜輸送. 第 2 回メタロミクス研究フォーラム, 2010 年 11 月(京都)

11. 吉田 さくら, 原武 衛, 淵上剛志, 中山守雄: カタクチイワシ由来セレン含有物質の分離分析. 第2回メタロミクス研究フォーラム, 2010年11月(京都)
12. 坂野綱則, 淵上剛志, 原武 衛, 中山守雄: アルブミンへのセレノシステインの導入によるグルタチオンペルオキシダーゼ擬似体の合成. 第2回メタロミクス研究フォーラム, 2010年11月(京都)
13. 小川綾華, 渡邊裕之, 小野正博, 淵上剛志, 原武 衛, 中山守雄: 老人斑アミロイドイメージングプローブとしてのスチリルクロモン誘導体の評価. 第50回日本核医学会学術総会, 2010年11月(埼玉)
14. 小橋信弥, 原武 衛, 淵上剛志, 中山守雄: ^{125}I 標識キナクリン及び関連化合物のアミロイドイメージングプローブとしての評価. 第50回日本核医学会学術総会, 2010年11月(埼玉)
15. 淵上剛志, 原武 衛, 間賀田泰寛, 原田平輝志, 中山守雄: Glycine Transporter 1の機能イメージングを目的とした ^{125}I 標識 SSR-504734 誘導体の開発. 第50回日本核医学会学術総会, 2010年11月(埼玉)
16. 渡邊裕之, 小野正博, 木村寛之, 淵上剛志, 原武 衛, 佐治英郎, 中山守雄: オーロンを基本骨格とした β アミロイドイメージングプローブの開発. 第50回日本核医学会学術総会, 2010年11月(埼玉)
17. 淵上剛志, 原武 衛, 間賀田泰寛, 原田平輝志, 中山守雄: 脳内 Glycine transporter 1の画像化を目的とした ^{125}I 標識 *N*-{Phenyl (piperidin-2yl)methyl}benzamide 誘導体の開発. 第10回放射性医薬品・画像診断薬研究会, 2010年12月(京都)
18. 瀧口 徹, 原武 衛, 淵上剛志, 中山守雄: 酵母プリオンタンパク質断片のアミロイド形成とその伝播に関する検討. 第27回日本薬学会九州支部大会, 2010年12月(長崎)
19. 坂野綱則, 原武 衛, 淵上剛志, 中山守雄: アルブミンへのセレノシステインの導入によるグルタチオンペルオキシダーゼ様活性の創製. 第27回日本薬学会九州支部大会, 2010年12月(長崎)
20. 小橋信弥, 祖母井香織, 原武 衛, 淵上剛志, 布施隆行, 新 竜一郎, 西田教行, 中山守雄: プリオン病の画像診断を目的とした ^{125}I 標識キナクリン及び関連化合物の開発. 第27回日本薬学会九州支部大会, 2010年12月(長崎)
21. 淵上剛志, 原武 衛, 間賀田泰寛, 原田平輝志, 中山守雄: 脳内 glycine transporter 1の SPECT イメージングを目的とした放射性ヨウ素標識 SSR-504734 誘導体の開発. 第27回日本薬学会九州支部大会, 2010年12月(長崎)

【研究費取得状況】

1. 腫瘍選択的な核医学診断の実現を目指した新規 Survivin イメージング剤の開発; 日本学術振興会 科学研究費補助金・若手研究 B

【過去の研究業績総計】

原著論文 (欧文)	14 編	(邦文)	0 編
総説 (欧文)	0 編	(邦文)	1 編
著書 (欧文)	0 編	(邦文)	0 編
紀要 (欧文)	0 編	(邦文)	0 編
特許	0 件		